

肥満や糖尿病患者、高齢者らに対応

現場目線の「栄養指導教材」46種類制作

管理栄養学科学生 県内の医療機関などへ提供

南九州大学(学長 中瀬昌之)ではこのほど、健康栄養学部管理栄養学科3年生が、肥満や糖尿病患者、高齢者などに寄り添った栄養指導教材46種類を制作しました。教材は、科学的根拠に基づいたわかりやすい文章やイラストを用い、生活習慣の改善や行動変容を促す内容となっています。また、冊子だけでなくデジタルデータ化したことで、医療・介護の現場ごとのニーズに応じて柔軟にアレンジできる点が大きな特徴です。

教材は「栄養教育論実習」の一環として取り組まれ、授業は原口直樹講師(栄養教育研究室)の指導のもと、原田岬助手のサポートを受けながら実施されました。学生たちは授業での学びを基に、アイデアを盛り込みながら多様なニーズを想定した内容を考案しました。高齢化の進展や生活習慣病・がんの増加など、社会が抱える健康課題に対応し、現場で働く管理栄養士の業務を支援したいという思いが込められています。

先月には、教材制作に携わった学生と、授業を担当する同学科の原口直樹講師が宮崎大学医学部附属病院の栄養管理部を訪問。笹葉啓子副部長に教材を贈呈しました＝写真。教材を手にした笹葉副部長は、「患者さん一人ひとりに合わせた栄養指導教材は不可欠だが、業務の中で新たに制作するのは難しい。学生が作った教材はアレンジしやすく、使い勝手がよさそう。ぜひ活用したい」と笑顔で話していました。当日は同部で管理栄養士として活躍する本学卒業生らへの教材紹介や意見交換も行われ、学生にとって現場の声を直接聞く貴重な学びの機会となりました。



笹葉副部長(右)に栄養指導教材を手渡す管理栄養学科の学生と原口講師(左)

本学では今後も、授業で得た知識や成果を社会に還元し、大学・医療機関・地域が連携した健康づくりを推進していきます。

指導教員のコメント

本学で初めての取り組みとなった今回の教材制作では、学生が授業で得た知識を実践に活かし、地域の医療・介護現場に還元することで学びを深める実学教育の一例となりました。原田岬助手の丁寧なサポートのもと、学生は対象者に寄り添った栄養指導の重要性を体験的に学び、大学・病院・地域が連携した健康づくりの一端を担うことができました。(原口直樹講師)